

平成二十七年度 第五十八回卒業式

式辞

正門の脇にある河津桜がひと足早い春を感じさせてくれる季節となりました。本日、第五十八回卒業式を挙行了しましたところ、公私ともに大変お忙しい中、弥富市副市長大木博雄（おおき ひろお）様をはじめ、多くの来賓の方々のご臨席を賜りました。高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。

さて、二二三名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。普段の朝礼では一番後ろから後輩たちを温かく見守り、大きな安定感・安心感を与えてくれた皆さんが、今日はこうして、最前列で主役として座っています。いつもよりひとときわ大きく見えるのは距離が近いからでしょうか。いや、そうではないと思います。皆さんがこれまで歩んできた道、培ってきた力、身につけた自信、それらが全身からあふれているのだと、私は思います。

皆さんは二〇〇〇年、二〇〇一年に生まれました。時代が二十一世

紀へと大きく舵をきった時です。先生たちが子どもの頃、二十一世紀は「未来」でした。ノートの端に宇宙船やロボットの絵を描き、空想にふけたものでした。それが、時代の流れとともに少しずつ現実のものとなっていきました。例えば缶コーヒーや携帯電話、電気自動車は一九七〇年に大阪で開催された万国博覧会、万博で出品・展示されたものでした。それが今、私たちの生活の中に深くかわるようになり、「未来」は現実のものとなってきたのです。では、その「未来」は、時が経てば必ず現実となるのでしょうか。私はそうは思いません。長い年月をかけた研究があり、何回も試作品を作って、数えきれないほどの失敗を繰り返し、それを改良して世に送り出されたものです。それは、皆さんの歩んできた道とまさに同じだと思っています。

日々の授業の中で、解けない問題にぶつかった時、部活動でどれだけ練習しても思いどおりのプレーができなかった時、皆さんは「もう一回！」と挑戦しました。隣にいる友達と話し合いました。そして、先生や家の人に尋ねた人もいました。そうした失敗や挫折、そして工夫や努力があったからこそ、皆さんは自分の進路を切り拓き、夢に向かって一歩前進できたのだと思います。

皆さんの行く手には「未来」があります。いや、皆さん自身が「未来」そのものだ、私は思います。その「未来」には、今では想像もできないものが生まれているかもしれません。この中の誰かがそれを生み出しているかもしれないのです。そうです、「未来」の主演は皆さんです。

しかし、その「未来」は時として、想像をはるかに超える絶望によって閉ざされることがあります。記憶に新しいところでは、五年前の東日本大震災でしょうか。地震が襲った東北の各地では、今もお、仮設住宅での生活を余儀なくされ元の生活が取り戻せないでいる方が多くみえます。それと同じように今から五十七年前、この弥富も絶望感に町中が沈んでいた時期がありました。そう、一九五九年、昭和三十四年に伊勢湾台風がこの地を襲い、大勢の方がなくなり、町中が水浸しになったあの災害です。私自身もヘリコプターで命からがら避難したと、父から聞いています。

実は、その頃の、弥富は「未来」に大きな希望を抱いていました。旧弥富町と旧鍋田村が合併し、弥富町が誕生し、新しい町づくりが始まったところでした。そのシンボリック存在だったのが、この「弥

富中学校」です。二つの中学校をひとつにし、当時まだ珍しかった鉄筋コンクリート三階建の立派な校舎でした。その真っ白な校舎が、わずか一年半ほどしか経っていない九月に、一夜にして周りをすべて海で囲まれてしまったのですから、当時の人たちの落ち込みは想像を絶するものがあります。

しかし、その光景を見て、あきらめる人は誰一人としていませんでした。立ち止まろうとはしませんでした。日本中からの多くの支援を受けながら、少しずつ少しずつ元の生活を取り戻し、弥富の町は復興していきました。その礎（いしずえ）があったからこそ、今の弥富市の発展があると、私は思います。

あなたがたにはその血が流れています。だから、私は、あなたがたに「未来」を託します。どうか、歩みを止めることなく、自分自身の未来に向かって、ふるさとの未来を担う一人として大きく成長して行ってください。これが、卒業する皆さんへのメッセージです。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子さまのご卒業、誠におめでとうございます。三年間にわたり皆さまにとってかけがえのない大切なお子さま方をお預かりし、本校教職員一同、子どもたちの成長のために全力を尽くしてまいりました。力不足のところもあり、

保護者の皆さまには、もどかしさを感じられたところがあったかもしれませんが、本日、子どもたちの立派な姿をお見せすることができました。教職員一同誇りに感じるとともに、この成長を保護者のみなさまとともに喜びたいと思います。この三年間、本校に深いご理解と、多大なご協力をいただき、誠にありがとうございました。子どもたちは今日、ここに弥富中学校を卒業しますが、今後も、保護者の皆様方とともに、子どもたちのさらなる成長を見守り、応援し続けることをお約束し、式辞といたします。

平成二十八年三月四日

弥富市立弥富中学校長

高山典彦